

日興FWS・ 日本株クオリティ

【運用報告書(全体版)】

(2021年8月3日から2022年8月1日まで)

第 1 期
決算日 2022年8月1日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、主として日本の株式に投資し、クオリティを重視したアクティブ運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	無期限（設定日：2021年8月3日）
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主として日本の株式に投資し、クオリティを重視したアクティブ運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 コムジェスト日本株式ファンド（適格機関投資家限定） コムジェスト日本株式マザーファンド キャッシュ・マネジメント・マザーファンド 円建て公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	■投資信託証券への投資を通じて、主として日本の株式に投資し、クオリティを重視したアクティブ運用を行います。 ■指定投資信託証券の選定については、S M B C日興証券株式会社からの助言を受けます。なお、指定投資信託証券は、継続的にモニタリングを行い必要な場合は入替えも行います。
組入制限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	■年1回（原則として毎年7月31日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 （ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 （基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。）

三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ

お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 設定以来の運用実績

決算期	基準価額			(参考指数) TOPIX (東証株価指数、配当込み)		公社債 組入比率	投資信託 証券組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率	期中 騰落率	期中 騰落率			
(設定日) 2021年8月3日	円 10,000	円 -	% -	3,065.49	% -	% -	% -	百万円 1
1期(2022年8月1日)	8,398	0	△16.0	3,172.11	3.5	0.0	97.4	1,309

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

※参考指数は市場の動きを示す目的で記載しており、当ファンドが当該参考指数を意識して運用しているわけではありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		(参考指数) TOPIX (東証株価指数、配当込み)		公社債 組入比率	投資信託 証券組入比率
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率		
(設定日) 2021年8月3日	円 10,000	% -	3,065.49	% -	% -	% -
8月末	10,070	0.7	3,099.08	1.1	1.4	97.0
9月末	10,446	4.5	3,234.08	5.5	1.1	97.2
10月末	10,153	1.5	3,188.28	4.0	0.0	92.1
11月末	9,966	△0.3	3,073.26	0.3	0.0	96.0
12月末	9,783	△2.2	3,179.28	3.7	0.0	96.9
2022年1月末	8,415	△15.9	3,025.69	△1.3	0.0	97.4
2月末	8,494	△15.1	3,012.57	△1.7	0.0	97.3
3月末	8,968	△10.3	3,142.06	2.5	0.0	97.1
4月末	8,206	△17.9	3,066.68	0.0	0.0	96.8
5月末	8,158	△18.4	3,090.73	0.8	0.0	96.9
6月末	7,988	△20.1	3,027.34	△1.2	0.0	95.6
7月末	8,348	△16.5	3,140.07	2.4	0.0	97.8
(期末) 2022年8月1日	8,398	△16.0	3,172.11	3.5	0.0	97.4

※騰落率は設定日比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

1 運用経過

基準価額等の推移について(2021年8月3日から2022年8月1日まで)

基準価額等の推移



※参考指数は、設定日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

設定日	10,000円
期末	8,398円 (既払分配金0円(税引前))
騰落率	-16.0% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの参考指数は、TOPIX(東証株価指数、配当込み)です。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

基準価額の主な変動要因(2021年8月3日から2022年8月1日まで)

投資信託証券への投資を通じて、主として日本の株式に投資し、クオリティを重視したアクティブ運用を行いました。

下落要因

- FOOD & LIFE COMPANIES、ペプチドリーム、サイバーエージェント、日本M&Aセンターホールディングス、シスメックス等の株価が下落したこと

投資環境について(2021年8月3日から2022年8月1日まで)

日本の株式市場は、上昇しました。

期を通じて、日本の株式市場は上昇しました。

期初に菅首相が退陣表明したことによる次期政権や追加経済対策への期待に加え、国内での新型コロナウイルス感染者数減少やワクチン接種の進展等が好感され、株価は急騰しました。

その後、年末にかけては一進一退の展開となりました。比較的良好だった企業の決算、円安進行による輸出企業の業績改善期待、ワクチン普及に伴う経済再開等が好感された一方、中国恒大集団の債務問題をきっかけとした不動産規制、米国の利上げ前倒しに対する警戒感等の海外要因が主な下押し要因となりました。

2022年に入って以降、ウクライナをめぐる地政学リスクが浮上し、2月にはロシアが侵攻を開始、米国で金融引き締め観測が

浮上したこともあり、株式市場は軟調に推移しました。

3月には、ロシア・ウクライナの停戦交渉期待、米金融政策への不透明感の払しょく、日米金利差拡大に伴う円安進行などが好感し、株価は大きく反発しました。しかし4月以降は、インフレ、サプライチェーン(供給網)の混乱、欧米をはじめ世界的な金融引き締め、ロックダウン(都市封鎖)による中国経済の減速懸念等により、株価は下落が続きました。

一方、7月の参院選で勝利した岸田政権への期待、急速な円安進行に伴う輸出企業の採算改善、米インフレ懸念後退による米国市場の回復などを背景に投資家心理が持ち直す中、期末にかけて株価は反発しました。

ポートフォリオについて(2021年8月3日から2022年8月1日まで)

当ファンド

「コムジェスト日本株式ファンド(適格機関投資家限定)」の組入比率を高位に保ちました。

コムジェスト日本株式ファンド
(適格機関投資家限定)

「コムジェスト日本株式マザーファンド」の組入比率を高位に保ちました。

(コムジェスト日本株式マザーファンド)

当ファンドは、常に個別企業の長期的な利益成長に着目したもので、業種別配分は行いません。投資判断は、個別企業の5年を軸とした利益成長性、その成長への確信度、バリュエーション(投資価値評価)で判断します。また株式の組入比率は基本的に高位を維持します。

期中、長期的な成長率の低下が懸念される企業(ワークマン、ヤマハ等)の株式を全売却し、成長への確信度が高まった企業や

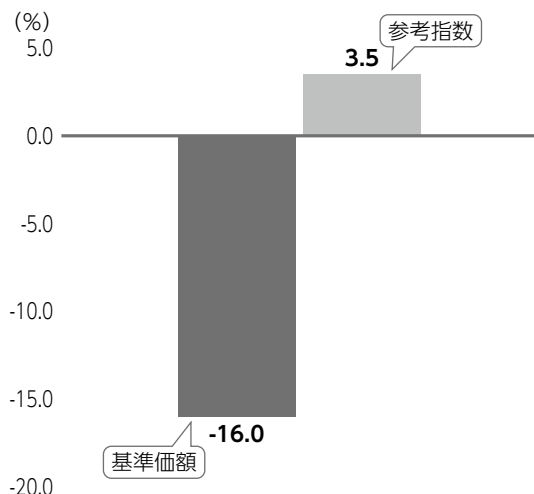
株価下落に伴いバリュエーションの魅力が高まった企業等(ネクソン、デクセリアルズ等)の株式を新たにポートフォリオに追加しました。

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

主として、円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。

ベンチマークとの差異について(2021年8月3日から2022年8月1日まで)

基準価額と参考指数の騰落率対比



※基準価額は分配金再投資ベース

当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数としてTOPIX(東証株価指数、配当込み)を設けています。左のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

分配金について(2021年8月3日から2022年8月1日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第1期
当期分配金	0
(対基準価額比率)	(0.00%)
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	0

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りとしたしました。
 なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

2 今後の運用方針

当ファンド

「コムジェスト日本株式ファンド(適格機関投資家限定)」の組入比率を高位に保ちます。

コムジェスト日本株式ファンド (適格機関投資家限定)

「コムジェスト日本株式マザーファンド」の組入比率を高位に保ちます。

(コムジェスト日本株式マザーファンド)

どのような市場環境においても、長期的に高い利益成長が期待できるクオリティグロース企業を厳選し、投資していくという

方針に変更はありません。

ポートフォリオは、日本の構造的な変化やアジアを中心とした海外の成長を捉え、または独自の技術力等活かして今後5年間も年率2ケタの利益成長が実現できると予想される企業で構成されています。そして成長企業が評価されにくい市場環境だったことからバリュエーションについても魅力的な水準にあると判断しています。

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

円貨建ての短期公社債および短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。

3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

1万口当たりの費用明細(2021年8月3日から2022年8月1日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	21円	0.225%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は9,151円です。
(投信会社)	(15)	(0.164)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(3)	(0.033)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(3)	(0.027)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数
(株式)	(-)	(-)	売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数
(株式)	(-)	(-)	有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	0	0.005	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保管費用)	(-)	(-)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.005)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(0)	(0.000)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	21	0.229	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

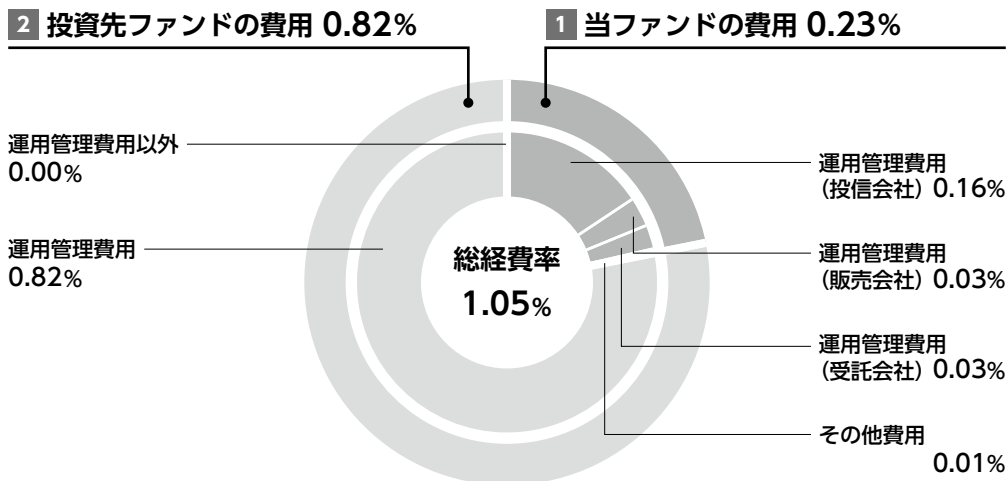
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率(年率換算)



総経費率(1 + 2)	1.05%
1 当ファンドの費用の比率	0.23%
2 投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.82%
2 投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00%

※**1**の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※**2**の各費用は、投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の「1万口当たりの費用明細」をもとに、投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

※**1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は1.05%です。

■ 当期中の売買及び取引の状況 (2021年8月3日から2022年8月1日まで)

(1) 投資信託証券

		買 付		売 付	
		口 数	買 付 額	口 数	売 付 額
国内	コムジェスト日本株式ファンド (適格機関投資家限定)	口	千円	口	千円
		746, 334, 941	1, 489, 533	17, 379, 766	30, 092

※金額は受渡し代金。

※国内には、円建ての外国籍投資信託証券を含みます。

※管理上の都合により、一部の銘柄において属性が変わっている場合があります。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	千口 19	千円 20	千口 -	千円 -

■ 利害関係人との取引状況等 (2021年8月3日から2022年8月1日まで)

利害関係人との取引状況

日興FWS・日本株クオリティ

当期中における利害関係人との取引等はありません。

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	B A	%	うち利害関係人 との取引状況D	D C	%
公 社 債	百万円 1,308	百万円 4,571	28.6	百万円 -	百万円 -	-

※平均保有割合 0.0%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、SMB C日興証券株式会社です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
(2021年8月3日から2022年8月1日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 自社による当ファンドの設定・解約状況 (2021年8月3日から2022年8月1日まで)

期首 (元)	残高 (本)	当 期 設 定 当 元	期 末 残 高 (元)	期 末 残 高 (本)	取 引 の 理 由
1	1	-	1	-	当初設定時または当初運用時における取得等

■ 組入れ資産の明細 (2022年8月1日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	期		末
	口数	評価額	組入比率
コムジェスト日本株式ファンド (適格機関投資家限定)	728,955,175	1,274,869	97.4
合計	728,955,175	1,274,869	97.4

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(2) 親投資信託残高

種類	期		末
	口数	評価額	比率
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	19	19	19

※キャッシュ・マネジメント・マザーファンドの期末の受益権総口数は4,080,305,712口です。

■ 投資信託財産の構成

(2022年8月1日現在)

項目	期		末
	評価額	比率	比率
投資信託受益証券	1,274,869	97.1	97.1
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	19	0.0	0.0
コール・ローン等、その他	38,695	2.9	2.9
投資信託財産総額	1,313,584	100.0	100.0

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2022年8月1日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	1,313,584,716円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	38,695,015
投資信託受益証券(評価額)	1,274,869,705
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド(評価額)	19,996
(B) 負 債	4,524,634
未 払 解 約 金	3,271,094
未 払 信 託 報 酬	1,210,893
そ の 他 未 払 費 用	42,647
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	1,309,060,082
元 本	1,558,752,824
次 期 繰 越 損 益 金	△ 249,692,742
(D) 受 益 権 総 口 数	1,558,752,824口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(C/D)	8,398円

※当期における期首元本額1,000,000円、期中追加設定元本額1,630,801,157円、期中一部解約元本額73,048,333円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2021年8月3日 至2022年8月1日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 8,735円
受 取 利 息	642
支 払 利 息	△ 9,377
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△173,312,949
売 買 益	11,132,178
売 買 損	△184,445,127
(C) 信 託 報 酬 等	△ 1,795,435
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	△175,117,119
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 74,575,623
(配 当 等 相 当 額)	(△ 12,188)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 74,563,435)
(F) 合 計(D+E)	△249,692,742
次 期 繰 越 損 益 金(F)	△249,692,742
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 74,575,623
(配 当 等 相 当 額)	(△ 12,188)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 74,563,435)
繰 越 損 益 金	△175,117,119

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	0
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	0
1 万 口 当 た り 当 期 分 配 対 象 額	0.00
(f) 分配金	0
1 万 口 当 た り 分 配 金	0

■ 分配金のお知らせ

1 万 口 当 た り 分 配 金 (税 引 前)	当 期
	0円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

コムジェスト日本株式ファンド

(適格機関投資家限定)
追加型投信／国内／株式

運用報告書【全体版】

《第6期》

決算日：2021年12月27日

(作成対象期間2020年12月26日～2021年12月27日)

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「コムジェスト日本株式ファンド」(適格機関投資家限定)は、2021年12月27日に第6期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【当ファンドの仕組み】

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限	
投資対象	コムジェスト日本株式マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。	
運用方針	ベビーファンド	コムジェスト・エス・イー社に運用指図権限を委託しているマザーファンド受益証券への投資を通してこの投資信託にかかる信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として、運用を行います。 親投資信託の受益証券への組入比率は原則として高位を維持します。
	マザーファンド	主として日本の株式市場に上場する企業が発行する株式等を中心に投資を行うことにより、この投資信託にかかる信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として、運用を行います。
主な組入制限	ベビーファンド	➢株式への実質投資割合には制限を設けません。 ➢同一銘柄の株式への実質投資割合は、原則として投資信託財産の純資産総額の10%以内とします。
	マザーファンド	➢株式への投資割合には制限を設けません。 ➢同一銘柄の株式への投資割合は、原則として投資信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	➢分配対象範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当・利子等収益と売買益等の全額とします。 ➢分配原資が少額の場合には、分配を行わないこともあります。	

コムジェスト・アセットマネジメント株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2

HPアドレス：<http://www.comgest.co.jp/>

【当運用報告書に関するお問合せ先】

マーケティング部 TEL 03-4588-3640

受付時間 営業日の午前9時～午後5時

土日休日12月31日～1月3日を除く

当運用報告書は郵送又はEメールにて送付いたします。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			参考指数		株式組入比率	純資産総額		
	(分配落)	税金	み配金	期騰落	中率				
	円		円		%	%	百万円		
2期(2017年12月25日)	14,356		0		36.0	14,119	21.6	91.4	2,584
3期(2018年12月25日)	12,188		0		△15.1	11,146	△21.1	92.6	2,523
4期(2019年12月25日)	15,715		0		28.9	13,900	24.7	93.4	6,922
5期(2020年12月25日)	21,242		0		35.2	14,712	5.8	98.6	10,549
6期(2021年12月27日)	20,391		0		△4.0	16,709	13.6	95.5	12,999

(注) 当ファンドにベンチマークはありません。

(注) 参考指数はTOPIX(配当込)。参考指数は設定日を10,000として指数化しています。(以下同じ)

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

(注) 純資産総額は単位未満切り捨て。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数		株式組入比率
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率	
(期首)		円		%	%
2020年12月25日		21,242		—	98.6
12月末		21,687		2.1	98.8
2021年1月末		21,277		0.2	99.5
2月末		20,758		△2.3	97.4
3月末		21,254		0.1	95.9
4月末		20,568		△3.2	99.2
5月末		20,398		△4.0	98.0
6月末		20,906		△1.6	97.6
7月末		20,358		△4.2	97.9
8月末		20,910		△1.6	98.1
9月末		21,579		1.6	98.1
10月末		21,305		0.3	98.4
11月末		20,607		△3.0	97.4
(期末)					
2021年12月27日		20,391		△4.0	95.5

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドにベンチマークはありません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

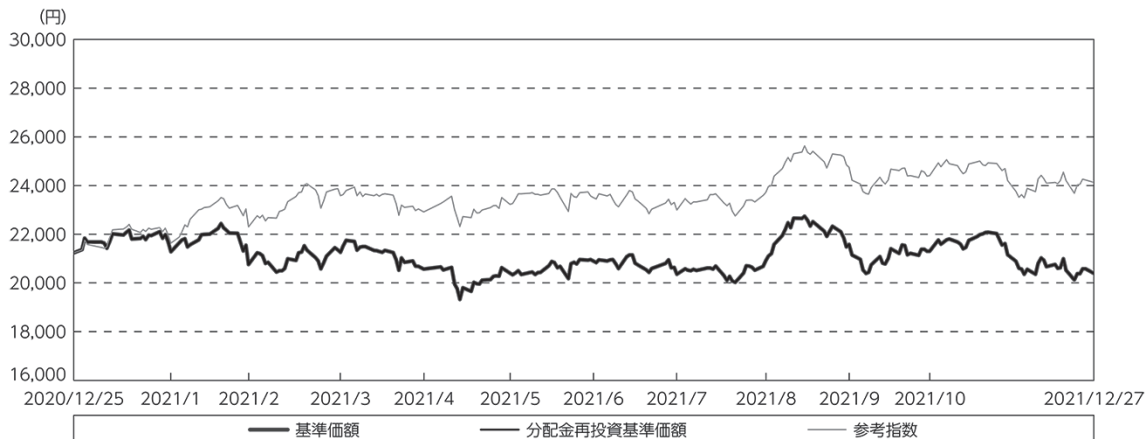
(注) 株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

【運用経過】

基準価額は、前期末の21,242円から第6期末は20,391円となり4.0%下落しました。

期中の基準価額の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

基準価額の主な変動要因

・プラス要因

クライアント(企業等)とユーザー(個人等)を結びつける様々なマッチングプラットフォームを運営するリクルート・ホールディングスは、HRテック事業および人材派遣業が特に堅調で、米国労働市場の逼迫から高い需要の取り込みに成功し、好業績を発表したことや業績見通しを上方修正したことから株価が大きく上昇しました。2021年4-6月期から組入れを開始したレーザーテックは、高い技術力、高い市場シェアを有する半導体用マスクブランクス欠陥検査装置の販売が好調でした。また、顧客である台湾のTSMCや米国のIntelなどの大型設備投資計画の発表が好感されました。「業務スーパー」を展開する神戸物産は、好調な売上推移や高利益率のプライベートブランド構成比率の上昇、フランチャイズ加盟店の出店が堅調に推移したことが好感されました。

・マイナス要因

ベビー用品大手のピジョンは、国内事業の低迷や物流費の高騰、積極的な投資によって減益となりました。また、国内および中国での出生率の低下が今後の成長の懸念材料とされたことから、株価が大きく下落しました。一方で海外事業は堅調で、今後の海外での成長に期待していることから継続保有の判断をしています。医療従事者向けポータルサイト、SNSなどを運営するエムスリーは、2020年医療関連のDX銘柄として注目が集まり急騰したことから、2021年に入って利益確定などの売りが膨らみ大きく下落しました。株価上昇に伴ってポジションを引下げましたが、長期的な利益見通しから全売却するべき水準との判断には至りませんでした。

た。特殊ペプチド医薬に特化した事業を展開するバイオ・医薬品企業であるペプチドリームは、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い創薬・治験の遅れが影響が大きく下落しましたが、同社は他に類を見ない技術力・競争力を有していると判断しています。

投資環境

2021年は、2020年大きく上昇していたクオリティの高い企業が、一部の市場参加者によって売却され、銀行株などのバリュー株が代わりに買われる局面が見られました。これは特に2021年第1四半期に顕著に見られました。年後半には、資本効率を重視し、ユニークなビジネスモデルを追求する質の高い企業への投資を目指す投資家を確認することができましたが、1年を通して、新型コロナウイルスの感染状況や金利動向によって、市場があるスタイルから別のスタイルへと揺れ動いた年となりました。

運用方針・ポートフォリオについて

〈当ファンド〉

主要投資対象である「コムジエスト日本株式マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れました。

〈コムジエスト日本株式マザーファンド〉

- ・約款の投資方針通り、国内企業が発行する株式を中心に投資を行いました。
- ・銘柄につきましては、コムジエストの投資アプローチに沿って長期的に利益成長が可能だと考えられるクオリティグロス企業を選別し、妥当割安な機会をとらえて投資しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標基準となるベンチマークは設けておりません。

参考指数はT O P I X（配当込）です。

参考指数との差異に関して

投資する一般消費財・サービス、資本財・サービス、ヘルスケア、生活必需品セクターの企業が参考指数比で軟調に推移したことが主なアンダーパフォーマンスの要因となりました。特に一般消費財・サービス、資本財・サービスセクターは、指数が上昇した一方で、投資しているファーストリテイリング、パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、ニトリ、そしてダイフク、Monotaro、日本空港ビルディングなどが下落したことが大きなマイナス要因となりました。

また、指数をけん引したトヨタ自動車、東京エレクトロン、三菱UFJ銀行、日立製作所、デンソー、三菱商事などを非保有だったこともマイナス要因となりました。

分配金について

当期の収益分配金については、基準価額水準等を勘案した結果、分配を行わないことが今後の安定的な運用につながると判断し、無分配とする方針を決めました。なお、収益分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第6期
	2020年12月26日～ 2021年12月27日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	10,812

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

〈当ファンド〉

主要投資対象である「コムジエスト日本株式マザーファンド」の受益証券の組み入れを高位に維持し、基準価額の上昇に努めます。

〈コムジエスト日本株式マザーファンド〉

どのような市場環境においても、長期的に高い利益成長が期待できるクオリティグロース企業に選別投資していくというコムジエストの投資方針に変更はありません。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年12月26日～2021年12月27日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	180	0.860	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(116)	(0.553)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(58)	(0.277)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(6)	(0.031)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	6	0.028	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(6)	(0.028)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.005	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.005)	・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	187	0.893	
期中の平均基準価額は、20,967円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2020年12月26日～2021年12月27日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
コムジエスト日本株式マザーファンド	千口 1,870,649	千円 4,086,824	千口 566,217	千円 1,284,043

(注) 単位未満は切り捨て。

○株式売買比率

(2020年12月26日～2021年12月27日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	コムジエスト日本株式マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	19,357,981千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	35,789,685千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.54

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2020年12月26日～2021年12月27日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況 (2020年12月26日～2021年12月27日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2020年12月26日～2021年12月27日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2021年12月27日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
コムジエスト日本株式マザーファンド	千口 4,760,310	千口 6,064,742	千円 12,997,348

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2021年12月27日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コムジエスト日本株式マザーファンド	12,997,348	99.6
コール・ローン等、その他	50,745	0.4
投資信託財産総額	13,048,093	100.0

(注) 金額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2021年12月27日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	13,048,093,288
コール・ローン等	50,744,708
コムジエスト日本株式マザーファンド(評価額)	12,997,348,580
(B) 負債	48,228,045
未払信託報酬	47,952,909
未払利息	136
その他未払費用	275,000
(C) 純資産総額(A-B)	12,999,865,243
元本	6,375,378,541
次期繰越損益金	6,624,486,702
(D) 受益権総口数	6,375,378,541口
1万口当たり基準価額(C/D)	20,391円

(注) 当ファンドの期首元本額は4,966,361,202円、期中追加設定元本額は2,002,749,477円、期中一部解約元本額は593,732,138円です。

(注) また、1口当たり純資産額は2.0391円です。

○損益の状況 (2020年12月26日～2021年12月27日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 20,677
支払利息	△ 20,677
(B) 有価証券売買損益	△ 383,243,243
売買益	33,104,737
売買損	△ 416,347,980
(C) 信託報酬等	△ 89,583,799
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 472,847,719
(E) 前期繰越損益金	3,499,646,582
(F) 追加信託差損益金	3,597,687,839
(配当等相当額)	(3,389,412,512)
(売買損益相当額)	(208,275,327)
(G) 計(D+E+F)	6,624,486,702
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	6,624,486,702
追加信託差損益金	3,597,687,839
(配当等相当額)	(3,391,228,240)
(売買損益相当額)	(206,459,599)
分配準備積立金	3,502,449,986
繰越損益金	△ 475,651,123

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 計算期末における費用控除後の配当等収益(2,803,404円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(3,391,228,240円)および分配準備積立金(3,499,646,582円)より分配対象収益は6,893,678,226円(10,000口当たり10,812円)ですが、当期に分配した金額はありません。

(注) 当ファンドが主要投資対象としております、コムジエスト日本株式マザーファンドは、運用の指図権限をComgest SAに委託しております。その費用として、委託者報酬のうち、販売会社へ支払う手数料を除いた額より、運用権限委託契約に定められた報酬額を支払っております。

コムジェスト日本株式マザーファンド (親投資信託)

運用報告書 《第6期》

決算日：2021年12月27日

(作成対象期間2020年12月26日～2021年12月27日)

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	株式投資信託 追加型投信／国内／株式（親投資信託）
信託期間	無期限
投資対象	日本市場に上場する企業が発行する株式等を主要投資対象とします。
運用方針	主として日本の株式市場に上場する企業が発行する株式等を中心に投資を行います。 徹底したファンダメンタル分析に基づいて、高い利益成長が期待される企業を中心に個別銘柄を選定し、集中的に投資することで信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
投資制限	> 株式への投資割合には制限を設けません。 > 同一銘柄の株式への投資割合は、原則として投資信託財産の純資産総額の10%以内とします。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		参考指数		株式組入比率	純資産総額
	円	騰落率	円	騰落率		
2期(2017年12月25日)	14,599	37.2	14,119	21.6	91.4	3,093
3期(2018年12月25日)	12,490	△14.4	11,146	△21.1	92.6	4,610
4期(2019年12月25日)	16,254	30.1	13,900	24.7	93.5	10,155
5期(2020年12月25日)	22,158	36.3	14,712	5.8	98.6	43,997
6期(2021年12月27日)	21,431	△3.3	16,709	13.6	95.5	33,219

(注) 当ファンドにベンチマークはありません。

(注) 参考指数はTOPIX(配当込)。参考指数は設定日を10,000として指数化しています。(以下同じ)

(注) 株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

(注) 純資産総額は単位未満切り捨て。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数		株式組入比率
	円	騰落率	円	騰落率	
(期首) 2020年12月25日	22,158	—	14,712	—	98.6
12月末	22,625	2.1	14,948	1.6	98.8
2021年1月末	22,214	0.3	14,983	1.8	99.5
2月末	21,680	△2.2	15,450	5.0	97.4
3月末	22,209	0.2	16,331	11.0	95.9
4月末	21,495	△3.0	15,868	7.9	99.2
5月末	21,338	△3.7	16,087	9.3	98.0
6月末	21,886	△1.2	16,278	10.6	97.6
7月末	21,326	△3.8	15,923	8.2	97.9
8月末	21,927	△1.0	16,428	11.7	98.1
9月末	22,644	2.2	17,143	16.5	98.1
10月末	22,372	1.0	16,901	14.9	98.4
11月末	21,645	△2.3	16,291	10.7	97.4
(期末) 2021年12月27日	21,431	△3.3	16,709	13.6	95.5

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドにベンチマークはありません。

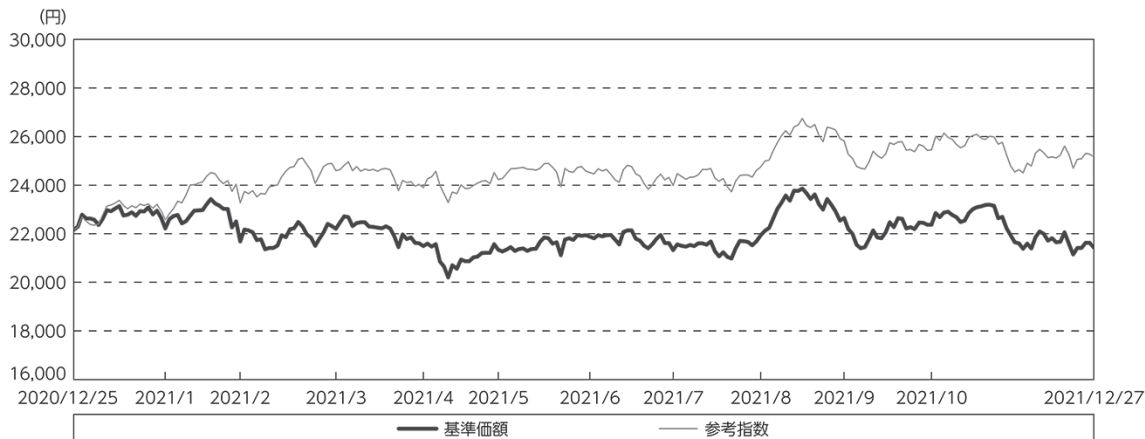
(注) 株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

【運用経過】

基準価額は、前期末の22,158円から第6期末は21,431円となり3.3%下落しました。

期中の基準価額の推移



(注) 参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

基準価額の主な変動要因

・プラス要因

クライアント（企業等）とユーザー（個人等）を結びつける様々なマッチングプラットフォームを運営するリクルート・ホールディングスは、HRテック事業および人材派遣業が特に堅調で、米国労働市場の逼迫から高い需要の取り込みに成功し、好業績を発表したことや業績見通しを上方修正したことから株価が大きく上昇しました。2021年4～6月期から組入れを開始したレーザーテックは、高い技術力、高い市場シェアを有する半導体用マスクブランクス欠陥検査装置の販売が好調でした。また、顧客である台湾のTSMCや米国のIntelなどの大型設備投資計画の発表が好感されました。「業務スーパー」を展開する神戸物産は、好調な売上推移や高利益率のプライベートブランド構成比率の上昇、フランチャイズ加盟店の出店が堅調に推移したことが好感されました。

・マイナス要因

ベビー用品大手のピジョンは、国内事業の低迷や物流費の高騰、積極的な投資によって減益となりました。また、国内および中国での出生率の低下が今後の成長の懸念材料とされたことから、株価が大きく下落しました。一方で海外事業は堅調で、今後の海外での成長に期待していることから継続保有の判断をしています。医療従事者向けポータルサイト、SNSなどを運営するエムスリーは、2020年医療関連のDX銘柄として注目が集まり急騰したことから、2021年に入って利益確定などの売りが膨らみ大きく下落しました。株価上昇に伴ってポジションを引下げましたが、長期的な利益見通しから全売却すべき水準との判断には至りませんでした。特殊ペプチド医薬に特化した事業を展開するバイオ・医薬品企業であるペプチドリームは、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い創薬・治験の遅れが影響し大きく下落しましたが、同社は他に類を見ない技術力・競争力を有していると判断しています。

投資環境

2021年は、2020年大きく上昇していたクオリティの高い企業が、一部の市場参加者によって売却され、銀行株などのバリューストックが代わりに買われる局面が見られました。これは特に2021年第1四半期に顕著に見られました。年後半には、資本効率を重視し、ユニークなビジネスモデルを追求する質の高い企業への投資を目指す投資家を確認することができましたが、1年を通して、新型コロナウイルスの感染状況や金利動向によって、市場があるスタイルから別のスタイルへと揺れ動いた年となりました。

運用方針・ポートフォリオについて

- ・約款の投資方針通り、国内企業が発行する株式を中心に投資を行いました。
- ・銘柄につきましては、コムジェストの投資アプローチに沿って長期的に利益成長が可能だと考えられるクオリティグロース企業を選別し、妥当割安な機会をとらえて投資しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標基準となるベンチマークは設けておりません。

参考指数はTOPIX（配当込）です。

参考指数との差異に関して

投資する一般消費財・サービス、資本財・サービス、ヘルスケア、生活必需品セクターの企業が参考指数比で軟調に推移したことが主なアンダーパフォーマンスの要因となりました。特に一般消費財・サービス、資本財・サービスセクターは、指数が上昇した一方で、投資しているファーストリテイリング、パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、ニトリ、そしてダイフク、Monotaro、日本空港ビルディングなどが下落したことが大きなマイナス要因となりました。

また、指数をけん引したトヨタ自動車、東京エレクトロン、三菱UFJ銀行、日立製作所、デンソー、三菱商事などを非保有だったこともマイナス要因となりました。

今後の運用方針

どのような市場環境においても、長期的に高い利益成長が期待できるクオリティグロース企業に選別投資していくというコムジェストの投資方針に変更はありません。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年12月26日～2021年12月27日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 6 (6)	% 0.028 (0.028)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
合 計	6	0.028	
期中の平均基準価額は、21,946円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2020年12月26日～2021年12月27日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 1,572 (802)	千円 4,466,047 (-)	千株 1,860	千円 14,891,933

(注) 金額は受け渡し代金。単位未満は切り捨て。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○ 株式売買比率

(2020年12月26日～2021年12月27日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	19,357,981千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	35,789,685千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.54

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2020年12月26日～2021年12月27日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況 (2020年12月26日～2021年12月27日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2021年12月27日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
化学 (8.3%)			
信越化学工業	66	53.3	1,052,142
コーセー	105.3	71.6	935,812
小林製薬	86.6	70.1	635,807
医薬品 (2.5%)			
中外製薬	165.9	95.4	357,463
ペプチドリーム	201.3	162.7	435,059
非鉄金属 (1.3%)			
住友金属鉱山	—	97.3	418,390
機械 (7.2%)			
ディスコ	23.6	—	—
ダイキン工業	61.3	49.2	1,266,900
ダイフク	158.2	108.6	1,033,872
電気機器 (23.9%)			
日本電産	130.1	53.7	724,144
ソニーグループ	—	64.3	923,669
キーエンス	24.3	15.5	1,134,290
シスメックス	141.8	85.7	1,308,210
レーザーテック	—	29	994,410
ファナック	45.9	33.6	807,912
浜松ホトニクス	95.3	77.1	565,914
村田製作所	152.9	123.6	1,134,648
輸送用機器 (3.2%)			
スズキ	278.2	177.4	779,673
シマノ	8.2	7.8	239,382
精密機器 (3.9%)			
HOYA	52.9	42.9	723,723
朝日インテック	296.9	205.2	506,228
その他製品 (3.3%)			
ヤマハ	134.1	83.9	476,552
ビジョン	314.4	254.2	556,698
電気・ガス業 (1.4%)			
レノバ	—	110.7	431,730

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
情報・通信業 (8.0%)			
ネクソン	—	71.5	160,446
GMOペイメントゲートウェイ	76.6	41.3	593,481
オービック	44.6	36	767,160
Zホールディングス	—	492.6	315,362
光通信	34.9	14.8	259,740
ソフトバンクグループ	172	85.2	444,744
卸売業 (3.9%)			
神戸物産	345.3	279.2	1,249,420
小売業 (12.4%)			
Monotaro	237.9	327	675,582
FOOD & LIFE COMPANIES	318.1	257.2	1,104,674
パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	468.9	379.1	599,736
ワークマン	85.6	—	—
ニトリホールディングス	53.3	43.1	731,191
ファーストリテイリング	18.9	12.6	836,136
保険業 (2.3%)			
第一生命ホールディングス	—	319.7	736,269
その他金融業 (2.3%)			
オリックス	—	312.5	716,562
不動産業 (2.7%)			
日本空港ビルデング	182.7	178.2	844,668
サービス業 (13.4%)			
日本M&Aセンターホールディングス	178.4	288.5	780,681
エムスリー	184.6	101.2	582,102
オリエンタルランド	61.5	49.6	970,920
サイバーエージェント	159.4	515.7	988,596
リクルートホールディングス	332.6	134.5	931,412
合 計	株数・金額	5,498	6,012
	銘柄数<比率>	37	43

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2021年12月27日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	31,731,517	95.5
コール・ローン等、その他	1,488,316	4.5
投資信託財産総額	33,219,833	100.0

(注) 金額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2021年12月27日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	33,219,833,941
コール・ローン等	1,463,298,131
株式(評価額)	31,731,517,120
未収入金	19,434,690
未収配当金	5,584,000
(B) 負債	3,928
未払利息	3,928
(C) 純資産総額(A-B)	33,219,830,013
元本	15,500,729,589
次期繰越損益金	17,719,100,424
(D) 受益権総口数	15,500,729,589口
1万口当たり基準価額(C/D)	21,431円

(注) 当親ファンドの期首元本額は19,856,555,433円、期中追加設定元本額は4,060,678,620円、期中一部解約元本額は8,416,504,464円です。

(注) 当親ファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額は、【元本の内訳】の通りです。

(注) また、1口当たり純資産額は2,1431円です。

元本の内訳

コムジエスト日本株式ファンド(適格機関投資家限定) 6,064,742,000円

コムジエスト日本株式ファンドD(適格機関投資家限定) 5,744,892,876円

コムジエストジャパンエクイティファンドF(適格機関投資家専用) 3,691,094,713円

○損益の状況 (2020年12月26日～2021年12月27日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	295,704,506
受取配当金	296,473,080
受取利息	2
その他収益金	16,127
支払利息	△ 784,703
(B) 有価証券売買損益	△ 1,233,200,783
売買益	3,941,904,962
売買損	△ 5,175,105,745
(C) 当期損益金(A+B)	△ 937,496,277
(D) 前期繰越損益金	24,141,246,453
(E) 追加信託差損益金	4,830,195,380
(F) 解約差損益金	△ 10,314,845,132
(G) 計(C+D+E+F)	17,719,100,424
次期繰越損益金(G)	17,719,100,424

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

第16期（2021年7月27日から2022年7月25日まで）

信託期間	無期限（設定日：2007年2月20日）
運用方針	■安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行います。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■最近5期の運用実績

決算期	基準 額	価 額		公 組 入 社 比	債 率	純 総 資 産 額
		騰 落	中 率			
12期（2018年7月25日）	円 10,172		% △0.0		% 69.2	百万円 4,478
13期（2019年7月25日）	10,167		△0.0		72.9	3,760
14期（2020年7月27日）	10,160		△0.1		86.2	4,668
15期（2021年7月26日）	10,154		△0.1		62.8	5,851
16期（2022年7月25日）	10,152		△0.0		75.3	4,586

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 額	価 額		公 組 入 社 比	債 率
		騰 落	率		
(期首) 2021年7月26日	円 10,154		% -		% 62.8
7月末	10,154		0.0		61.0
8月末	10,154		0.0		72.4
9月末	10,154		0.0		59.0
10月末	10,154		0.0		65.7
11月末	10,153		△0.0		65.3
12月末	10,152		△0.0		58.4
2022年1月末	10,152		△0.0		62.5
2月末	10,151		△0.0		67.5
3月末	10,151		△0.0		71.2
4月末	10,151		△0.0		81.8
5月末	10,151		△0.0		76.3
6月末	10,152		△0.0		73.0
(期末) 2022年7月25日	10,152		△0.0		75.3

※騰落率は期首比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について（2021年7月27日から2022年7月25日まで）

基準価額等の推移



期首	10,154円
期末	10,152円
騰落率	-0.0%

▶ 基準価額の主な変動要因（2021年7月27日から2022年7月25日まで）

当ファンドは、本邦通貨建ての公社債および短期金融商品等を主要投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行いました。

下落要因

- ・ マイナス金利政策導入を背景として無担保コールレートがマイナス化していること

▶ 投資環境について（2021年7月27日から2022年7月25日まで）

期間における国内短期金融市場は、マイナス圏で推移しました。

国内短期金融市場

国内短期金融市場では、期間の初め-0.11%近辺でスタートした国庫短期証券3ヵ月物の利回りは、-0.08%~-0.20%の狭いレンジで推移し、-0.15%近辺で期間末を迎えました。

▶ ポートフォリオについて (2021年7月27日から2022年7月25日まで)

安全性と流動性を考慮し、短期の政府保証債を中心とした運用を行いました。年限に関しては、残存6ヵ月以内の短期の政府保証債を中心とした運用を継続しました。

▶ ベンチマークとの差異について (2021年7月27日から2022年7月25日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

2 今後の運用方針

日本銀行は2021年3月の金融政策決定会合において、より効果的で持続的な金融緩和を実施していくための点検を行いました。現時点で日本銀行によるマイナス金利の深掘りの可能性は低いものの、現行の強力な金融緩和政策を継続することから、市場利回りは当分の間低い水準での推移を予想します。当ファンドでは引き続き、安全性と流動性をもっとも重視したスタンスでの運用を継続し、短期の国債・政府保証債を中心とした運用を行ってまいります。ファンドの平均残存年限については、2～4ヵ月程度を目安に短めを基本とする方針です。

■ 1万口当たりの費用明細 (2021年7月27日から2022年7月25日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用 (その他)	0円 (0)	0.001% (0.001)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	0	0.001	

期中の平均基準価額は10,152円です。

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況 (2021年7月27日から2022年7月25日まで)

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	特 殊 債 券	2,864,455	(3,066,000)
	社 債 券	1,806,994	(1,800,000)

※金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

※（ ）内は償還等による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

※社債券には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

※管理上の都合により、一部の銘柄において属性が変わっている場合があります。

■ 利害関係人との取引状況等 (2021年7月27日から2022年7月25日まで)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況 B	B A	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況 D	D C
公 社 債	4,671	1,308	28.0	—	—	—

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、SMB C日興証券株式会社です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
(2021年7月27日から2022年7月25日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2022年7月25日現在)

公社債

A 債券種類別開示

国内(邦貨建)公社債

区 分	期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBBB格以下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
					5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
	千円	千円	%	%	%	%	%
特 殊 債 券 (除く金融債券)	2,346,000 (2,346,000)	2,352,252 (2,352,252)	51.3 (51.3)	— (—)	— (—)	— (—)	51.3 (51.3)
普 通 社 債 券	1,100,000 (1,100,000)	1,102,492 (1,102,492)	24.0 (24.0)	— (—)	— (—)	— (—)	24.0 (24.0)
合 計	3,446,000 (3,446,000)	3,454,745 (3,454,745)	75.3 (75.3)	— (—)	— (—)	— (—)	75.3 (75.3)

※()内は非上場債で内書きです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

※管理上の都合により、一部の銘柄において属性が変わっている場合があります。

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

B 個別銘柄開示 国内（邦貨建）公社債

種 類	銘 柄	期			末
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
特 殊 債 券 (除く金融債券)	39政保地方公共団	0.8010	115,000	115,059	2022/08/15
	1 政保新関西空港	0.8010	445,000	445,366	2022/08/29
	51 政保関西空港	2.1000	100,000	100,230	2022/08/31
	40政保地方公共団	0.8190	170,000	170,223	2022/09/16
	173 政保道路機構	0.8190	100,000	100,161	2022/09/30
	218 政保預金保険	0.1000	100,000	100,047	2022/10/14
	175 政保道路機構	0.7910	135,000	135,313	2022/10/31
	42政保地方公共団	0.8050	281,000	281,764	2022/11/14
	23 政保日本政策	0.7340	200,000	200,646	2022/12/16
	182 政保道路機構	0.8340	400,000	401,928	2023/01/31
	18 政保中部空港	0.6680	300,000	301,510	2023/03/22
小 計	—	2,346,000	2,352,252	—	
普 通 社 債 券	372 中国電力	1.2040	100,000	100,099	2022/08/25
	7 日本電産	0.1140	100,000	100,008	2022/08/30
	46 三井不動産	0.9640	100,000	100,091	2022/08/30
	11 ダイセル	0.1400	200,000	200,017	2022/09/15
	87東日本旅客鉄道	0.8690	100,000	100,151	2022/09/27
	94 丸紅	1.1700	100,000	100,240	2022/10/12
	3 東燃ゼネラル石油	1.2220	100,000	100,430	2022/12/05
	19 ダイキン工業	1.2040	100,000	100,460	2022/12/12
	11 LIXILグループ	0.0100	100,000	99,936	2023/07/18
6 JXホールディングス	1.1190	100,000	101,056	2023/07/19	
小 計	—	1,100,000	1,102,492	—	
合 計	—	3,446,000	3,454,745	—	

※管理上の都合により、一部の銘柄において属性が変わっている場合があります。

■ 投資信託財産の構成

(2022年7月25日現在)

項 目	期		末
	評 価 額	比 率	
公 社 債	千円		%
	3,454,745		75.3
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,134,253		24.7
投 資 信 託 財 産 総 額	4,588,998		100.0

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2022年7月25日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	4,588,998,699円
コーポレート債(評価額)	1,128,939,961
未収利息	3,454,745,014
前払費用	4,924,447
(B) 負 債	2,010,298
未払解約金	4,924,447
その他未払費用	389,277
(C) 純資産総額(A-B)	4,586,988,401
元 本	4,518,439,727
次期繰越損益金	68,548,674
(D) 受益権総口数	4,518,439,727口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,152円

※当期における期首元本額5,763,082,023円、期中追加設定元本額2,653,267,074円、期中一部解約元本額3,897,909,370円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

SMBCファンドラップ・日本バリュー株	984,252円
SMBCファンドラップ・J-REIT	984,252円
SMBCファンドラップ・G-REIT	93,018,163円
SMBCファンドラップ・ヘッジファンド	311,216,889円
SMBCファンドラップ・米国株	984,543円
SMBCファンドラップ・欧州株	89,718,432円
SMBCファンドラップ・新興国株	61,111,034円
SMBCファンドラップ・コモディティ	30,882,058円
SMBCファンドラップ・米国債	136,874,567円
SMBCファンドラップ・欧州債	68,341,252円
SMBCファンドラップ・新興国債	54,958,024円
SMBCファンドラップ・日本グロース株	167,596,581円
SMBCファンドラップ・日本中小型株	27,029,827円
SMBCファンドラップ・日本債	964,891,078円
DC日本国債プラス	1,432,047,753円
エマージング・ボンド・ファンド・円コース(毎月分配型)	598,887円
エマージング・ボンド・ファンド・豪ドルコース(毎月分配型)	606,168円
エマージング・ボンド・ファンド・ニュージーランドドルコース(毎月分配型)	347,745円
エマージング・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース(毎月分配型)	619,829円
エマージング・ボンド・ファンド・南アフリカランドコース(毎月分配型)	468,047円
エマージング・ボンド・ファンド・トルコリラコース(毎月分配型)	886,592円
エマージング・ボンド・ファンド(マネーパールファンド)	172,728,849円
大和住銀 中国株式ファンド(マネー・ポートフォリオ)	26,108,158円

エマージング・ボンド・ファンド・中国元コース(毎月分配型)	354,941円
日本株厳選ファンド・円コース	270,889円
日本株厳選ファンド・ブラジルリアルコース	438,760円
日本株厳選ファンド・豪ドルコース	679,887円
日本株厳選ファンド・アジア3通貨コース	9,783円
日本株225・米ドルコース	49,237円
スマート・ストラテジー・ファンド(毎月決算型)	12,541,581円
スマート・ストラテジー・ファンド(年2回決算型)	4,566,053円
カナダ高配当株ツインα(毎月分配型)	433,260円
日本株厳選ファンド・米ドルコース	196,696円
日本株厳選ファンド・メキシコペソコース	196,696円
日本株厳選ファンド・トルコリラコース	196,696円
エマージング・ボンド・ファンド・カナダドルコース(毎月分配型)	25,219円
エマージング・ボンド・ファンド・メキシコペソコース(毎月分配型)	565,128円
グローバル創薬関連株式ファンド	984,834円
世界リアルアセット・バランス(毎月決算型)	466,767円
世界リアルアセット・バランス(資産成長型)	598,196円
米国分散投資戦略ファンド(1倍コース)	207,305,923円
米国分散投資戦略ファンド(3倍コース)	544,096,579円
米国分散投資戦略ファンド(5倍コース)	445,153円
グローバルDX関連株式ファンド(予想分配金提示型)	295,276円
グローバルDX関連株式ファンド(資産成長型)	1,968,504円
日興FWS・日本株クオリティ	19,697円
日興FWS・日本株市場型アクティブ	19,697円
日興FWS・先進国株クオリティ(為替ヘッジあり)	19,697円
日興FWS・先進国株クオリティ(為替ヘッジなし)	19,697円
日興FWS・先進国株市場型アクティブ(為替ヘッジあり)	19,697円
日興FWS・先進国株市場型アクティブ(為替ヘッジなし)	19,697円
日興FWS・新興国株アクティブ(為替ヘッジあり)	19,697円
日興FWS・新興国株アクティブ(為替ヘッジなし)	19,697円
日興FWS・日本債アクティブ	19,697円
日興FWS・先進国債アクティブ(為替ヘッジあり)	19,697円
日興FWS・先進国債アクティブ(為替ヘッジなし)	19,697円
日興FWS・新興国債アクティブ(為替ヘッジあり)	19,697円
日興FWS・新興国債アクティブ(為替ヘッジなし)	19,697円
日興FWS・Jリートアクティブ	19,697円
日興FWS・Gリートアクティブ(為替ヘッジあり)	19,697円
日興FWS・Gリートアクティブ(為替ヘッジなし)	19,697円
日興FWS・ヘッジファンドマルチ戦略	19,697円
日興FWS・ヘッジファンドアクティブ戦略	19,697円
大和住銀マルチ・ストラテジー・ファンド(ヘッジ付)(適格機関投資家限定)	98,396,143円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2021年7月27日 至2022年7月25日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	24,828,178円
受 取 利 息	25,479,526
支 払 利 息	△ 651,348
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△25,929,128
売 買 益	8,500
売 買 損	△25,937,628
(C) そ の 他 費 用 等	△ 47,699
(D) 当 期 損 益 金(A + B + C)	△ 1,148,649
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	88,861,070
(F) 解 約 差 損 益 金	△59,645,514
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	40,481,767
(H) 合 計(D + E + F + G)	68,548,674
次 期 繰 越 損 益 金(H)	68,548,674

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

■ お知らせ

<約款変更について>

該当事項はございません。